

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 コミュニカ学院

1 事業の趣旨・目的

学習者が主体的に日本語学習を進められるよう日本語学習セルフアクセス・センターを設置し、セルフアクセス・センターを利用した自律的学習を助ける日本語学習講座を実施する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
2009 年 7 月 26 日 10:00～12:00	青木直子 松原マリナ 長嶋昭親 湯口 恵 奥田純子 竹田悦子 丸山友子	平成 21 年度「日本語教室の設置運営」に関する内容・スケジュール・広報等について	①神戸日本語学習セルフアクセス・センター「自分で決めてやってみる日本語学習」の内容確認・意見交換を行った。 ②開催スケジュール及び担当者、開催場所の確認を行い、スケジュール、場所、役割分担を確定した。 ③広報スケジュール、チラシの内容・言語等の検討と広報先の検討を行い、各国語版の作成を行うこととし、広報先も確定した。 ④神田外語大学で英語教育のために設置されているセルフアクセス・センターの情報収集を行うことを決定し、脇坂氏に調査を依頼することとした。
2009 年 10 月 25 日 10:00～12:00	青木直子 松原マリナ 長嶋昭親 湯口 恵 奥田純子 竹田悦子	日本語教室の開講についてスケジュール進捗状況およびについて	① スケジュール進捗状況および、応募状況の報告を行った。 ② 応募者について、参加者の決定を行った。 ③ 今後のスケジュールの再確認を行い、小グループによる自律的学習

	丸山友子		も盛り込むこととし、3月15日を講座終了日とすることを確認した。
2010年 3月7日 10:00～12:00	青木直子 松原マリナ 長嶋昭親 湯口 恵 奥田純子 竹田悦子 丸山友子	日本語教室の開催状況 及び評価会	① 講座の出席状況、講習内容の報告を行った。 ② 講座終了まで、グループ学習2回が残っているが、これまでに開催した講座の振り返り及び評価を行い、今後に向け課題をまとめた。 ③ 今後も活動の継続を行うことを確認し、次年度以降の活動案を策定した。

【写真】



3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称：神戸日本語学習セルフアクセス・センター
「自分で決めてやってみる日本語学習」
- ② 開催場所：神戸市中央区東町 116-2 コミュニカ学院
- ③ 学習目標：学習者が主体的に日本語学習を進められるセルフアクセス・センターを設置し、学習者がセンターを利用して自律的学習が行えること
- ④ 使用した教材・リソース：日本語ポートフォリオ他
- ⑤ 受講者の募集方法
 - 1) 「ひょうご日本語ネット」を構成する6団体((財)兵庫県国際交流協会、兵庫ボランティアネットワーク、(財)難民事業本部、ひょうご日本語教師連絡会議、神戸日本語教育協議会、子ども多文化共生センター)を通して、チラシを送付した。
 - 2) 上記の他、兵庫県下の日本語教室(神戸定住外国人支援センター、NGO ベトナム in KOBE、(財)神戸市国際交流協会他)の30箇所にチラシを郵送、メールで送付した。
 - 3) 外国人の多く集まる神戸南京町(中華街)のレストラン等にチラシをおいてもらい、募集広報を行った。
- ⑥ 受講者の総数 10 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

⑦ 開催時間数(回数) 40 時間 (全 20 回)

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	11月02日 13:00~15:00	2時間	10人	中国・中国語(6人) シンガポール・中国語(1人) ペルー・スペイン語(1人) オーストラリア・英語(1人) アメリカ・英語(1人)	教授者1人 補助者2人	オリエンテーション 学習の目的・目標の設定 教材: 日本語ポートフォリオ他
②	11月05日 13:00~15:00	2時間	10人	中国・中国語(6人) シンガポール・中国語(1人) ペルー・スペイン語(1人) オーストラリア・英語(1人) アメリカ・英語(1人)	教授者1人 補助者2人	学習目標の決定と学習方法の選択 教材: 日本語ポートフォリオ他
③	11月09日 13:00~15:00	2時間	9人	中国・中国語(6人) シンガポール・中国語(1人) ペルー・スペイン語(1人) オーストラリア・英語(1人)	教授者1人 補助者2人	日本語ポートフォリオとモジュール型カリキュラムを利用した学習の方法の学習 教材: 日本語ポートフォリオ他
④	11月12日 13:00~15:00	2時間	10人	中国・中国語(6人) シンガポール・中国語(1人) ペルー・スペイン語(1人) オーストラリア・英語(1人) アメリカ・英語(1人)	教授者1人 補助者2人	学習方法と学習リソースの選択の方法① 教材: 日本語ポートフォリオ他
⑤	11月16日 13:00~15:00	2時間	10人	中国・中国語(6人) シンガポール・中国語(1人) ペルー・スペイン語(1人) オーストラリア・英語(1人) アメリカ・英語(1人)	教授者1人 補助者2人	学習方法と学習リソースの選択の方法② 教材: 日本語ポートフォリオ他
⑥	11月19日 13:00~15:00	2時間	7人	中国・中国語(3人) シンガポール・中国語(1人)	教授者1人 補助者2人	さまざまな学習リソースを知り、

				ペルー・スペイン語（1人） アメリカ・英語（1人）		選択する① 教材：日本語ポート フォリオ他
⑦	11月26日 13:00~15:00	2時間	8人	中国・中国語（6人） シンガポール・中国語（1人） アメリカ・英語（1人）	教授者1人 補助者2人	さまざまな学習 リソースを知り、 選択する② 教材：日本語ポート フォリオ他
⑧	11月30日 13:00~15:00	2時間	8人	中国・中国語（6人） シンガポール・中国語（1人） アメリカ・英語（1人）	教授者1人 補助者2人	学習リソースを 使った学習の体 験① 教材：日本語ポート フォリオ他
⑨	12月03日 13:00~15:00	2時間	10人	中国・中国語（6人） シンガポール・中国語（1人） ペルー・スペイン語（1人） オーストラリア・英語（1人） アメリカ・英語（1人）	教授者1人 補助者2人	学習リソースを 使った学習の体 験② 教材：日本語ポート フォリオ他
⑩	12月07日 13:00~15:00	2時間	8人	中国・中国語（6人） シンガポール・中国語（1人） ペルー・スペイン語（1人）	教授者1人 補助者2人	学習の評価方法 の選択① 教材：日本語ポート フォリオ他
⑪	12月10日 13:00~15:00	2時間	10人	中国・中国語（6人） シンガポール・中国語（1人） ペルー・スペイン語（1人） オーストラリア・英語（1人） アメリカ・英語（1人）	教授者1人 補助者2人	学習の評価方法 の選択② 教材：日本語ポート フォリオ他
⑫	12月14日 13:00~15:00	2時間	9人	中国・中国語（6人） ペルー・スペイン語（1人） オーストラリア・英語（1人） アメリカ・英語（1人）	教授者1人 補助者2人	学習の評価と振 り返り① 教材：日本語ポート フォリオ他
⑬	12月17日 13:00~15:00	2時間	8人	中国・中国語（6人） シンガポール・中国語（1人） ペルー・スペイン語（1人）	教授者1人 補助者2人	新たな目標の設 定 教材：日本語ポート フォリオ他
⑭	12月21日	2時間	7人	中国・中国語（3人）	教授者1人	ポートフォリオ

	13:00~15:00			シンガポール・中国語 (1人) ペルー・スペイン語 (1人) オーストラリア・英語 (1人) アメリカ・英語 (1人)	補助者 2人	を使った学習① 教材: 日本語ポート フォリオ他
⑮	1月07日 13:00~15:00	2時間	6人	中国・中国語 (6人)	教授者 1人 補助者 2人	ポートフォリオ を使った学習② 教材: 日本語ポート フォリオ他
⑯	1月14日 13:00~15:00	2時間	10人	中国・中国語 (6人) シンガポール・中国語 (1人) ペルー・スペイン語 (1人) オーストラリア・英語 (1人) アメリカ・英語 (1人)	教授者 1人 補助者 2人	ポートフォリオ を使った学習③ 教材: 日本語ポート フォリオ他
⑰	1月18日 13:00~15:00	2時間	9人	中国・中国語 (6人) シンガポール・中国語 (1人) ペルー・スペイン語 (1人) オーストラリア・英語 (1人)	教授者 1人 補助者 2人	ポートフォリオ を使った学習④ 教材: 日本語ポート フォリオ他
⑱	1月21日 13:00~15:00	2時間	9人	中国・中国語 (6人) シンガポール・中国語 (1人) ペルー・スペイン語 (1人) オーストラリア・英語 (1人)	教授者 1人 補助者 2人	ポートフォリオ を使った学習⑤ 教材: 日本語ポート フォリオ他
⑲	1月25日 13:00~15:00	2時間	7人	中国・中国語 (5人) シンガポール・中国語 (1人) ペルー・スペイン語 (1人)	教授者 1人 補助者 2人	学習の評価と振 り返り② 教材: 日本語ポート フォリオ他
⑳ -1	1月28日 13:00~15:00	2時間	2人	中国・中国語 (2人)	教授者 1人 補助者 2人	グループA個別学習と 共有化 教材: 日本語ポート フォリオ他
㉑ -2	2月08日 13:00~15:00	2時間	3人	中国・中国語 (3人)	教授者 1人 補助者 2人	グループB個別学習と 共有化 教材: 日本語ポート フォリオ他
㉒ -3	2月15日 13:00~15:00	2時間	3人	シンガポール・中国語 (1人) オーストラリア・英語 (1人) アメリカ・英語 (1人)	教授者 1人 補助者 2人	グループC個別学習と 共有化 教材: 日本語ポート

						フォリオ他
②⑩ -4	2月22日 13:00~15:00	2時間	2人	中国・中国語(1人) ペルー・スペイン語(1人)	教授者1人 補助者2人	グループD個別学習と 共有化 教材:日本語ポート フォリオ他
②⑩ -5	3月8日 13:00~15:00	2時間	1人	ペルー・スペイン語(1人)	教授者1人 補助者2人	グループE個別学習と 共有化 教材:日本語ポート フォリオ他
②⑩ -6	3月15日 13:00~15:00	2時間	2人	中国・中国語(1人) シンガポール・中国語(1人)	教授者1人 補助者2人	グループF個別学習と 共有化 教材:日本語ポート フォリオ他

⑧ 日本語教室の具体的内容

- ・学習者にセルフアクセス・センターのさまざまな学習リソースの活用方法を学んでもらうことで学習者開発を行った
- ・自律的な学習能力の育成のため、自ら学習の到達目標、学習計画、学習方法、教材を選択し、学習の評価が行えるツールとして日本語ポートフォリオを紹介した。
- ・日本語ポートフォリオを活用して学習計画をたて、セルフアクセス・センターのリソース等を利用した学習を教室及び自宅等で行ってもらい、上手くいっていること、困っていること等のメタ認知のサポート、進めかたや評価の仕方についての学習アドバイジングを行った。

⑨ 特徴的な授業風景

(1) アドバイジング事例①

Aさんは3年前に来日、現在レストランで毎日14:30まで働いている。日本語で店のメニューは覚えており、お客様が話すことはわかるが、自分からは話せない。また、店にかかってくる電話が聞き取れないのが問題だと思っている。Aさんのまわりの人は日本語を助けてくれるが、相手にも悪いし、自分にとっても助けてもらうことはあまり良くないと考えている。日本語を学習したいという気持ちを強く持っており、1年ほど某教室に通っていたが、期間が切れてしまうため、今は自分で少し勉強を始めている。以下、Aさんの最初のアドバイジング報告。アドバイジングは通訳者を交えてのものである。リソースは「日本語ポートフォリオ」等使用。

1. 簡単な自己紹介をしてもらう(名前、ニックネームなど、アドバイザーも簡単に自己紹介)
2. 次に、セルフアクセス・センターの概要の説明(Aさんの通っていた日本語教室との違い—アドバイザーがいること。学習者が一人で日本語学習を続けて行けるように助けることなど)、センターの特徴(リソースの説明、何が学習できるかなど)、学習期間など

3. 「わたしの学習ニーズ」のシートを使って、説明を加えながら、やりたいことを記入してもらう。「話すこと」「聞くこと」をやりたいが、「読むこと」「書くこと」「文法」などは「×」やりたくない、を記入。
4. 「話す」「聞く」の「できます」シートを使って、レベルチェックをする。「話す」:A0(もっとも入門期のレベル)がほとんど出来るくらいで、「聞く」:A1 が半分くらい出来るレベル。
5. 「できます」シートを基に、「近い目標」シートに沿ってやりたいことを考えてもらう。Aさん「自分で考えるのか?」と困っている様子だったので、どんなことができるようになりたいか、そのためにどんなことができそうかという例を出して説明する。
6. Aさんの問題は、接客中はお客様が何をいっているかはわかるが、話せない—レストランで電話を受けなければならないが、相手が何をいっているかわからない。いつもは「店長はいません」といって乗り切っている。お客様からの電話の聞き取りができるようになりたい—ということから、Aさんは、学習の「近い目標」として、「電話で簡単な対応ができるようになること」と決める。「電話を受けたとき、どういったらいいか」「予約を受けてから電話を切る時、なんといえればいいか」を知りたいということだったので、「暮らしの指さし会話帳: 中国語版」を紹介する。また、後者の質問に対する答えが載っているサイトや頁が思い当たらなかったため、「ご来店お待ちしております」ということばをその場で提示。
7. Aさんに「どのように学習をするか」、「どうやったらできたかがわかるか」を考えてもらったが、アイデアがなかなかでてこない。また、Aさんにとっては、書くことが多くて疲れてきてもいた。さらに、「ついていけるかどうか不安」という発言もあった。Aさんにとっては、母語を読むことも普段ほとんどしない経験であるため、母語で読むのにも慣れていない様子であった。また、シートをたくさん書かなければならなかったため、「フォーマルな感じの場所」であるように感じられたようだ。プレッシャーをかけないようにマイペースで続けていけばよいことを伝えたところ、Aさんは、まず、「ご来店お待ちしております」等のフレーズを電話で試してみることを決めた。また、Aさんは、自分で言いたいフレーズを勉強してみて、わからないことを質問したいということだったので、次回はセンターでそれをやってみることにした。
8. 最後に、インターネットのリソースの紹介をした。Aさんは、最初インターネットは使えないし、サイトは日本語で書かれているため使えないといていたが、インターネットが日本語学習のサイトをまとめたものであること、ネットカフェなど外でも使えることを説明し、紹介したところ「音声ができるところがいい」ということで、後日、URL を Email アドレスで受け取り、やってみることにした。

(2) アドバイジング事例②

まず、学習者Bさんとアドバイザーで、前回、学習者が決めた目標がどのくらい達成できたかを確認する。Bさんの先週の目標は、「旅行代理店に行き、日本語でフライトなどの予約をする」である。Bさんが実際に某旅行会社に行ってみると、Bさんの母語ができるスタッフがいたため、日本語を使わなくてもよい状況になったとのことで、Bさんと相談し、今回は、

今やっている日本語学習を振り返り、そこでの問題はないかを確認することにした。

Bさんは、“Japanese for busy people”を使用しており、現在、5課をやっているが、本にはとても満足しているのでこのまま続けたいと思っていた。そこで、リソースセンターの”Japanese for Busy people”のテキストを見ながら、どのように学習しているか、問題はないかを尋ねていった。学習方法は、仕事が忙しいので車に乗りながらテキスト付属の CD を聞く、頁下の単語リストなどを活用して単語を覚えるというやり方をとっていること、大きな問題はないが、忙しくて時間があまりなく、学習したことをすぐに忘れてしまうことが問題だと感じていた。アドバイザーからリソースセンターにある・Japanese for busy people”のワークブックを紹介したところ、次回、これを使って勉強してみようことを決めた。Bさんは、学習ツールとして、Website も使って学習しているので、今学習中の”Japanese Phrases for travelers” http://japanese_phrases.sakura.ne.jp/ のサイトを開いて、使い方を一緒に見ていった。文字に加え音が出るので、会社のパソコンでもやってみるとのことであった。今回は、時間がないうこと、覚えたことを忘れてしまうことについて、まだ問題だと感じていたら、どうしたらいいと思うか、など踏み込んだアドバイジングをすることとした。

一週間後、Bさんは、リソースセンターで、約 1 時間自習。質問がある場合は聞いてくださうと伝え、アドバイザーは近くで待機。自習が始まって早々、以下の質問がでたが、アドバイジングは、日本語を教えることではないで、次のようなアドバイスをした。

1. 母語からの辞書の引き方がわからない—リソース「指差し会話帳 JAPAN」を見せ、後ろについている簡単な辞書を紹介。 Bさんは、それを使って自分で「あめ」や「ふゆ」などを調べはじめる。
2. (少し学習した後で)助詞の使い方がわからない。助詞は覚える必要があるのか?—リソース”Lonely planet Japanese”の助詞の説明のページを紹介。それをしばらく自分で読み、別のページにある文の作り方のページも読んでいた。そのあとで、「助詞は混乱するが、覚える必要があるか?」という質問がでた。「どう思いますか?」と聞くと、「覚える必要があると思う」という返答だったので、「どうやって覚えますか?一つ一つの助詞の機能を覚えますか?それともフレーズと一緒に覚えますか?」と聞き、考えてもらった。「あなたは、どう思うか?」とのアドバイザーへの質問には「人の学習スタイルによると思う」と答える。しばらく考えた後、Bさんは「フレーズの中で助詞を覚えていく」ことにした。Bさんの今日の自習は、「指差し会話帳 JAPAN」を使用して辞書を引いてみる。”Lonely planet Japanese language”の簡単な文の作り方のページと助詞のページを読む。”Japanese for busy people”のワークブックを使って現在学習中の CD19を聞く、であった。Bさんは、今回は、Busy people のワークブックの続きと、レストランのメニューを持ってきて注文のときのフレーズを Lonely planet language で調べることにした。



⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年数	参加回数	当該教室での役割
ビクトル・バルガス	スペイン語(ペルー)	3年	20回	授業補助, 通訳, 翻訳
于 維強	中国語(中国)	13年	10回	授業補助, 通訳, 翻訳
周 萍	中国語(中国)	6年	2回	授業補助, 通訳, 翻訳

⑪ 支援者の名簿(⑦以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
竹田悦子	コミュニカ学院	日本語教育能力検定試験合格	3回	通訳 アドバイザー
丸山友子	コミュニカ学院	日本語教育主専攻修了	1回	通訳 アドバイザー
ボランティアを対象とした実践的長期研修参加者(8名)			3回～5回	アドバイザー

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

本教室の狙いは、セルフアクセス・センターを利用して、学習者自身が自分で目標を設定して学習をし、目標の達成状況を自分で評価することを助けることにある。学習者の学習目標は、それぞれであるが、総じて、目標を明確にできた人は直近の達成目標を各人の方法で達成できたと考える。ただ、アドバイジングの問題、学習方法と自己の学習スタイルの食い違い、

目標と学習方法の齟齬などにより、一人で完全にできるまでにはいかなかったケースもあった。

② 学習者の習得状況

学習者本人ができるようになったこと、あるいは、どのようにできるようになったかを言語行動のリストとして示せるようになった。学習者による目標達成の自己評価は、習得状況をほぼ正確に判定しており、学習者が自分の学習の成果(習得状況)を自覚できていると思われる。また、学習の方法を学ぶという面では、全ての学習者がそれぞれの気づきを持ち、学ぶことができたと考える。

③ 日本語教室設置運営の効果, 成果

リソースセンターでアドバイジングを受けながら、自律的学習を進めるという教室の設営は、地域の日本語教室でははじめての試みである。さまざまな制約の中で学ぶ地域の学習者にとって、自律的に学ぶという生涯学習の機会と場を提供できたことが最も大きな成果と考える。

④ 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

どのような支援をしたらいいかを模索している日本語教室の支援者に学習者自らが、このような学習を、このような方法でしたいとリクエストできる機会を作れたこと、期限付きの教室に通う学習者が本教室で引き続き学習を継続できるようになったことが挙げられる。

⑤ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

今年度は、対象を初級者とし、リソースも初級者用に限定してそろえた。また、通訳者を交えたアドバイジングを行った場合、予想はしていたが、場合により、相当の時間がかかっている。

b. 今後の課題

初級者だけに限らず、中級、上級者へも対応できる必要がある。そのためには、まず、リソースをそろえることが不可欠である。また、会話の相手をしてくれる人など、人的なリソースをどのように整えるかは大きな課題である。通訳者には、セルフアクセス・センター、アドバイジング、リソース、エントリーの仕方など、かなり詳細な情報や仕組み、心得を伝えておく必要もあり、このような資料やオリエンテーションも行う必要がある。遠隔地に住む人には通信ソフトを使ってインターネットによるアドバイジングが可能である。しかし、その場合、インターネットを使える環境を提供してくれところが必要であり、各地の公民館や公共施設等との連携、協力も課題である。

c. 今後の活動予定, 展望

先の課題のうち、次年度は、中・上級者に対応できるよう、リソースを整備する予定である。また、リソースセンターの使い方の各国語版や通訳者への情報提供、心得のハンドアウトも整備する予定である。さらに、英語に関するリソースセンターなどを参考に、より良質のセンターとしたい。そして、アドバイザー養成講座の修了生に本教室で活躍してもらい、将来的には彼らを中心にアドバイザーのネットワーク化も図りたい。